



「読書活動」研修講座が行われました

8月23日、総合図書館 第1会議室で小学校、中学校、特別支援学校の先生たちを対象に「読書活動」研修講座が開かれました。講師は佐賀女子短期大学名誉教授 白根恵子先生でした。「子どもの読書活動を進めるために」

1. 子ども読書に関するできごと
2. 1冊の本との出会いがもたらすもの
3. 読書が育てる力
4. 本離れてほんとかな？
6. 読書力を育てる

の6つのことを話されました。

中でも、「読書力を育てる」ためには、読む意欲を高めなくてはならない、さらには、「読む技術を育てる」ことの大切さを話されたことが心に残りました。ただ子どもたちに本を与えれば良いのではなく、本を手渡すときは、適書や面白さを、最適の方法で心を込めて手渡さなければならないことがよく分かりました。

研修の後半、先生方一人一人がおすすめの本を持参して、紹介する時間がありました。本を広げて語られている先生方の姿から、子どもたちがわくわくして本を紹介してもらっている姿が目につかぶようでした。

「読書が育てる力」から、子どもたちの「読書活動」の推進をしていかななくてはならないと再確認した研修講座でした。





Hello! 学校図書館 福浜小学校

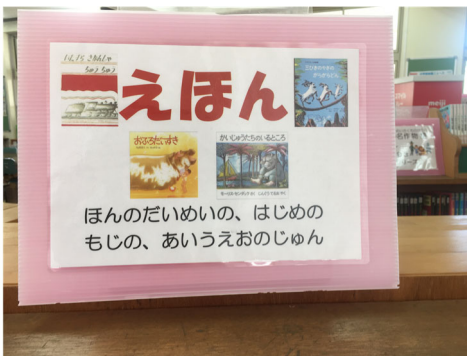
今月は中央区の福浜小学校を紹介します。

夏休み中ということもあり、校長先生を始めとして先生方は研修に出かけられていましたが、教頭先生に笑顔で迎えていただきました。以前、短時間でしたが訪問した時の図書館がとても素敵だったので、今回はゆっくりと見させていただきました。



書架がきれいに整理され、清潔感あふれる図書館でした。校長先生おすすめの本には、校長先生手書きの素敵なポップの掲示がありました。

さまざまなコーナーの工夫

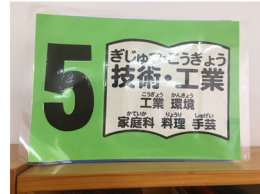


絵本が探しやすい表示がしてありました。また、こわい本のコーナー、各学年教科書に出てくる本が別置してありました。学習との並行読書が進みそうですね。

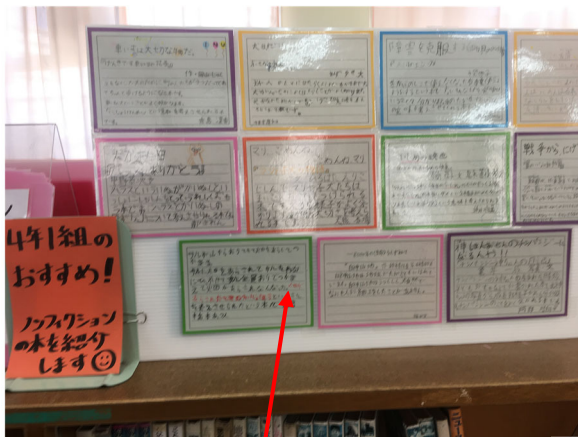
子どもたちが楽しみながら本を探している姿が目に見えようでした。

読みたい本を探しやすい工夫

日本十進分類法	
0 総記 そうき	5 技術・工業 ぎじゆつ・こうぎやう
1 哲学 ていがく	6 産業 さんぎやう
2 歴史・地理 れきし・ちり	7 芸術・スポーツ げいゆつ・すぽーつ
3 社会科学 しやかいかがく	8 言語 げんご
4 自然科学 しぜんがく	9 文学 ぶんがく



日本十進分類法の一覧表と各書架にある番号札の掲示が連動していて、子どもたちが自分の読みたい本を自分で探しやすい工夫がしてありました。「あった!」と、子どもたちが読みたい本を見つけたときの喜びが伝わってくるようでした。



子どもたち一人一人のおすすめの本が紹介されていました。どんな本を読もうかなと迷った時、参考になりそうですね。

おすすめのポイントがしっかりと書かれていて感心しました!



本の帯を使った9・10月の掲示・展示

いつのまにか秋の気配が感じられる毎日です。図書館も秋のみのりいっぱいになりましたね。秋にちなんださまざまなコーナーも作れそうです。



去りゆく夏はかわいい風鈴を、秋の実は野菜たちを作ってみました。ぶどうは、ティッシュを丸めて絵の具で色を付けています。





10月の人ともの



10.24 国連デー

1945年のこの日に国際連合が正式に発足したのを記念するために設けられました。日本は、1956年に第80番目の国として加盟しました。この日は国際デーの一つで、また「軍縮週間」の始まりでもあります。

10.27～11.9 読書週間

「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」と1947年から開催。秋の深まる季節に本に親しみ、多くの人に読書の楽しさを知ってもらおうと「文化の日」を中心に2週間、全国各地で読書に関するイベントが行われます。

10・31 ハロウィン

大昔イギリス等に住んでいたケルト人の先祖を供養する祭りに、キリスト教の万聖節などが合わさり、「万聖節前夜」を意味するハロウとなりました。現在は、仮装した子どもたちが家々をまわってお菓子をもらったりするイベントになっています。

馬場 のぼる(1927.10.18～2001.4.7)

青森県出身の漫画家、絵本作家。ほのぼのとした絵で描かれた「11ぴきのねこ」シリーズは、幼児から大人まで親しまれています。『絵巻絵本11ぴきのねこマラソン大会』でイタリア・ボローニャ国際児童図書展エルバ賞を受賞。

今西 祐行(1923.10.28～2004.12.21)

大阪生まれの児童文学作家。戦後、初めての童話集『しらのひつじかい』を出版した後、広島原爆被爆地の悲惨さを伝えた『ヒロシマの歌』『一つの花』など、童話、反戦文学、歴史文学など多彩な作品を数多く発表しました。

灰谷 健次郎(1943.10.31～2006.11.23)

兵庫県生まれの児童文学作家。小学校の教師をしながら詩や小説を書き、1974年『兎の眼』を出版。素朴にたくましく生きる子どもたちとそれを体当たりで受け止める女性教師の姿が反響を呼び、映画・テレビでドラマ化されました。

【あとがき】

実りの秋がやってきました。野菜売り場には、秋の野菜やくだものがおいしそうに並んでいます。学校図書館ではこの時期、「読書週間」に向けてさまざまな催しが考えられていることでしょう。子どもたちにとっても実りの秋になるよう、素敵な1冊に出会えると良いですね。

(足立)



9月20～26日は動物愛護週間ですね。今月は、動物たちが大活躍するお話を紹介します。

『のどか森の動物会議』

ボイ・ロルンゼン／作 山口 四郎訳 カールハイツ・グロース絵 童話館出版 1997年 ¥1,400 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

カラスの大食いヤコブスはいつも腹ペコ。ある日、何か食べ物はないかとのぞいた旅館《ななめ角屋》で、かわず村の男たちがとんでもないことを話し合っているのを立ち聞きしてしまう。村の男たちはお金もうけのために、ヤコブスはじめ動物たちが平和に暮らしているのどか森の木を切って売り払おうというのだ。さあ大変！森の動物たちは自分たちの森を守ることができるでしょうか……？

<子どもに手渡す時のポイント>

本の表紙には、大きなくちばしでソーセージの切れっぱしをくわえているちょっとユーモラスなカラス、また本の扉を開けると、見返しにはお話の舞台となるのどか森とかわす村の地図が描かれています。動物好きな子なら、見返しを見せながら簡単に内容を説明してあげると興味を持ってくれるのではないのでしょうか。

根底に流れるSDGsや環境問題を押しつけがましくなく、しかも分かりやすくおもしろく伝えてくれるこの本は、出版から50年近く経った(※)今でも色あせることなく変わらないテーマを私たちに語りかけてきます。いえ、変わらないどころか、今や喫緊の課題としてますます憂慮されている事態です。でもいったん難しいことは抜きにして、どうぞこのお話を子ども達と一緒に楽しんでください。動物たちが知恵を絞りどのように問題に立ち向かうのか、ユーモアあふれる痛快な物語に引き込まれることでしょう。

(※本書は1975年にあかね書房より出版されていましたが、1997年に童話館出版より再刊されました。)

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801